

# 個人の健康や幸せにおいて お金で解決できることは少ない



地域エコノミスト  
**藻谷浩介さん**

●聞き手 編集部

地域経済再生のために尽力している藻谷浩介さんは、日本の全市町村をくまなく回り、実際に見た様子に人口などの統計数字、郷土史などを照合して地域の状態や問題を捉えている。地域にある身近な資源を活用することで生活を豊かにすることを「里山資本主義」として提案していることでも知られる。

「地域を診る」という点において、保健師と共通点を持つ藻谷さんに、物事の正しい見方や、医療と経済の関係性などについて伺った。

## まち全体の雰囲気 五感で感じて記憶する

「全国各地を」自身の足で歩いて観察されていますが、いつころからそういったことに関心を持っているのでしょうか。

**藻谷** 幼いころから地理が大好きで、幼稚園の年長組ぐらいのときから、行った所のことを覚えていきます。地名だけではなく、まち全体の雰囲気を五感で感じてワッと記憶するのです。

次に行ったときに、何が変わって何が変わっていないのかを確かめる。そういう「定点観測点」を、全国に何千カ所も作っています。

その反面、人の顔や名前を覚えるのが苦手です。相手から見れば、ずいぶん失礼なことも多いでしょう。出身地だけ覚えていて、その話で盛り上がりたりするのですが。

「具体的には、地域のどんなことを五感で感じているのですか？」

## PROFILE ●もたに・こうすけ●

1964年山口県生まれ。株式会社日本総合研究所首席研究員、株式会社日本政策投資銀行地域企画部特任顧問。2000年ごろより地域振興の各分野で精力的に研究・著作・講演を行う。米国留学、シンガポール出向の経験を持ち、海外72カ国を訪れている。著書は『実測！ニッポンの地域力』（日本経済新聞社）、『デフレの正体』（角川書店）、『里山資本主義』（角川書店）、『しなやかな日本列島のつくりかた』（新潮社）など。

**藻谷** 住んでいる人の様子、気候、風土、植生、建物の老朽化具合、空き地の様子など、ありとあらゆる細かいことを感じ取ります。季節、曜日、時間帯、天気によって様子は変わりますから、バイアスがかからないように頭の中で修正します。それに人口などの各種統計数字、文化や歴史なども照合し

て、地域を多面的に把握するようにしています。

―藻谷さんは現場を見ることを重要視されていますが、本誌2015年6月号に登場した精神科医の中澤正夫さんも、公衆衛生活動の視点から、地域を歩いて五感で感じる事が重要で、統計数字からは家庭の問題は見えてこないと述べていました。

**藻谷** そのことを聞いて、さつき渋谷駅で遭遇した出来事を思い出しました。JRの券売機の所で、隣にいた外国人が、運賃が分からず困っていました。券売機の上に大きな運賃入りの路線図がありますよね？ その人の目になって眺めてみたら、その場所の図にはローマ字表記がないことに初めて気づきました。これまではすべての図にローマ字も書かれているような気がなんとなくなくて、問題を見過ごして

いたのです。

私たち一般人は、保健師的な訓練や教育を受けていませんから、「外国人観光客が増えているね」と感じているだけで、受け入れ態勢が不十分であることに気付いていないのです。「日本のおもてなし」とか自慢話をする前に、外国人の目線に立つて本当におもてなしになっているか、五感で感じてみる事が大事ですよ。

### 先入観が真実を ゆがめてしまう

―実際に地域を訪れて見た様子に、統計数字などを照合しているということですが、どんな数字を見ているのでしょうか。

**藻谷** 最初から注目しているのは「人口」です。小学校4年生のときに配られた地図帳の巻末に全国の市の人口が載っていて、それを覚えたのですが、

ているでしょう。工場で働いている人の数は機械化でどんどん減っていますから、市民は「工場は衰退している」と思い込む。ですが実は生産力は落ちておらず、出荷額は増えている。数字を確認しないと、外見からでは実態が全く見えていないことがあるのです。

このような、現実把握の失敗の根底

には、「工業出荷額が増えていけばもつと人口が増えるはずだ、もつとまちが元気になるはずだ」という先入観があります。ほとんどの人が「工場では機械が動いていけばいいのだから、人を雇う必要がない」という現実の認識ができていなくて、高度経済成長期の工場の人件費が安かった時代と同じ体制のままだと思いついて入っているのです。

実際に行ってみると人口規模とまちのにぎわいが一致しないことが多い。それ以来、統計数字と実際に見た様子は、どういう理由で一致したりズレたりするかということを、観察を重ねて考えてきました。

最初は人口だけでしたが、地域振興を仕事にするようになってからもっといろいろな数字をチェックするようになりました。いずれも全員を調査対象にした統計の数字で、サンプル調査からの推計はあまり信用していません。ところで、あなた（インタビュアー）はどちらのご出身ですか？（青森県八戸市だと聞いて）八戸市の工業出荷額は、増えているでしょうか、減っているでしょうか？

―減っていると思います。

**藻谷** 実は、増えているのです。ですが市民のほとんどが減っていると思っ

このようなズレを感じることは、自分の思考の先入観を発見する最高のチャンスです。ズレを見つけるたびに、どこで勘違いをしたのかを説明していくと、「〇〇の見る目が磨かれていきます。優れた医師だって、多くの症例を見てきた経験によって「そうはいうけど、こつちじゃないのかな」と直感することができまますよね。

―そう考えると世の中、先入観によって判断されていることが多いですね。

**藻谷** 日本の工業出荷額が増えていることは政府の統計数字で出ているのですが、その政府の当局者すらほとんど認識していない。先入観から「減っているに決まっている」と思っている。先入観だの社会通念だのは恐ろしいものです。

「人間だから、先入観で判断してしまうのは仕方がない」と言う人がいます



が、もし、患者の顔色を見るだけで診断する医師がいたら、それは大問題です。顔色がいいからといって血圧を測らず、触診もしないで「大丈夫」と診断されたら困りますよね。医師であれば「やぶ医者」という評判が立って淘汰されていく可能性もあるのですが、地域振興の世界はいい加減で、マクロ経済モデルの一般論だけに依拠して、数字も現場も見ずに間違いだらけの診断を下す人がたいへんに多いのです。

マクロ経済モデルに従った推計数字と違って、全数調査の統計は客観的な事実を伝えていきます。現場の実見から学ぶ訓練を積みつつ、統計数字と見た目の様子にズレを発見することで、自分がそういう先入観や思い込みにとらわれているかが分かるようになります。

最近流行っている思い込みが、株価が上がると景気が良くなるという話です。株価の上下と国内消費が連動した

ことは、バブル崩壊以降1回もありません。今回の株高でも消費は増えていないので、早晚株価は下がるだろうけれども消費が減ることもない。

「消費が増えているか、減っているか」といった判断は、理論で考えたり意見を集めたりなどするよりも、事実を数字で確認する方が早い。その結果、皆が信じ込んでいる理論に限界があることも分かってくるのです。

### 「高齢化率」ではなく「高齢者の絶対数」を見る

統計数字と見た目の様子のズレについて、医療・介護・福祉の分野で感じていることはありませんか？

ために、実態をきちんと把握できていないのです。物事を素のまま見ていない。これは、ものすごく大きな問題です。

的確でない数字に則って対策を講じたら、いろんなことが食い違ってくる。すね。

藻谷 ありとあらゆることが食い違ってくる。そもそもどんな数字が重要かは、目的に応じて違う。医療・介護・福祉の場合には、お客さん（＝高齢者）の増加がどの程度なのか重要なものあって、総人口に対する率は重要ではない。自分の頭でそう考えなくてはいいけません。高齢化率に関係なく、高齢者の絶対数が増えている地域の現場ほど、対応に苦慮しているのです。そういう現場の実情を見て、イメージしていたこととどこが違うのか、どうしてそういう間違ったイメージを抱く



藻谷 高齢者の増加が最も急速なのは首都圏だということを、首都圏の医療・介護・福祉の現場を知っている皆さんならご存知かもしれません。ですが、多くの日本人は「首都圏は若者が多くて活気がある。地方は高齢者が多くて衰退している」と思っています。

に至ったのかを解明していれば、正しい数字の使い方が分かり、物事も正しく見えるようになります。

### 肉と魚に野菜も混ぜてバランスが大事

著書『里山資本主義』で、地域にある身近な資源を活用して生活を豊かにすることについて述べていますね。

藻谷 「里山資本主義」と言うと、「田舎に帰って自給自足しろ」といわれても、できるわけがない」といった解釈をされることがありますが、私はそんなことを言っているのではなく、「都会の自宅の庭で野菜を作ったついでに、田舎の知り合いと仲良くしてもらってきたついでにいいじゃない？ 必要なものを100%お金で買うのって、偏ってないですか？」ということを言っています。お金を使わないで済ませる方法、たとえば自給、あるいは人

なぜ勘違いがまん延するのか。元凶は経済学者や業界関係者が使う「高齢化率」です。高齢化率の高低は実態に關して大きな勘違いをさせる数字で、私は絶対に使いません。

では、どのような数字を見る必要があるのでしょうか。

藻谷 「高齢者の絶対数」を見るべきです。次いで、絶対数の増加率です。高齢化率が上昇していても、高齢者の絶対数は減っているケースもあります。高齢化率が上昇していても、病院や福祉サービスを増やさなくてもよいケースもあるのです。

これは、決して難しい話ではありません。「まずは絶対数を見ましょう」と言っているだけです。ところが、ほとんどの人が絶対数を見ずに、いきなり「率」を計算してしまいます。高齢化率という的確でない数字を見ている

との「絆」を生かした物々交換、これらを活用することで、安心・安全が増えていきます。

「経済を成長させて、お金を稼いで豊かになって生きていきましょう（マネー資本主義＝経済成長至上主義）」という話は、鍋料理にたとえると、「肉と魚だけが入っている鍋をおかずにご飯も山盛り食べなさい」といった話です。ですが野菜を全く入れない鍋はおいしくないですよ。私は愚かにもやったことがあるのですが、絶対にやめた方がいいです（笑）。こんなにやくだって、カロリーはないかもしれないけれど入れた方がいい。肉や魚をお金とすれば、野菜とはお金を使わないで済ませる仕組み。これも、お金を使う傍らで同時に作っておいた方がいいのです。自分で少しだけでも食糧を自給するとか、薪を拾ってくるとか、ゲームばかりせずにいろんな人といつもしゃべっている中でいろいろ賈いもの

関係してきますね。

**藻谷** 他人とよくしゃべって、人との交わりが多い人は病気になるにくいですよ。その人が持っているいろんな「絆」が、結果的に医療費を減らす手段になるのです。

もちろん、骨折したら早く病院に行った方がいいし、薬を飲まないと治らない病気もあります。お金を使うのと使わないのと、そのバランスが大事です。

病気になるように個人が努力をすると、薬を買わなくなるので経済成長にはマイナスです。ですがその方がいい。経済成長だけが常に正しいのではないのです。

### 保健師の指導を受け入れる文化や気風が必要

病気になるように、予防の視点から地域の人に指導するのは保健師の



をするとか、そういった野菜は都会より田舎の方に多くありますよね。「人間が生きていくにはカロリーが必要で、体をつくるにはタンパク質が必要。この2つは絶対に必要だ」というのを否定するわけではない。お金は必要です。ですが「たまには野菜も食べてビタミンやミネラルを取ったら？」

役割なので、保健師の力が重要だということでしょうか。

**藻谷** 保健師の力ももちろん重要ですし、そういった保健師を受け入れる社会の文化、気風のあるなしが重要です。例えば、アメリカでは自分の身を守るために銃を所持してもよいことになっていきますよね。「銃を持たなくてもよい安全な社会にしましょう」と言うのと、「不安だから銃は持っておく」と言う人がいます。このように、銃さ

え持っていれば安心だという人が増えれば増えるほど、犯罪が増えるのです。同じように、「何かあったらすぐ病院に行けばいい、薬を買えばいい」と考える人が増えれば増えるほど、どんな医療費がかかって、経済が見かけ上は成長して、でも国は弱体化していきます。

保健師の指導を受け入れる気風があれば医療費が減ります。保健師が頑張

栄養はないけどこんなにやくは食物繊維が豊富だから食べた方がいいですよ」と言うのと同じで、お金以外のものも大事なのです。

—その、「絆」のような、お金に関係ないところで安心・安全が図れるということは、健康問題にも大きく

れば頑張るほど経済成長しないのですが、それでいい。使わなくて済むお金は、ほかのことに使っていただきたい。それでもなお経済を成長させたかったら、保健師の数を増やして、その人件費で成長させればいいのです。需要はいくらでもありますから。

—医療・介護・福祉の問題がますます深刻化しますが、それについてどのようにお考えですか？

**藻谷** ご存じのとおり、高齢者がこれからどんどん増えます。1985（昭和60）年から2015（平成27）年の30年間に、日本の65歳以上人口の絶対数は3倍近くに増え、医療・介護・福祉の需要も激増しました。でも、保健師の数は3倍には増えていませんよね。需要が増えたのに、供給を増やさずに「現場でなんとかしてください」と、無理に無理を重ねてごまかしてき

ているのです。よく現場が耐えている  
と思います。

今後、さらに65歳以上の人は25%増  
えます。3倍増えた後の25%ですから、  
さらに苦しくなります。その上、85歳  
以上はこれから2.5倍に増えるので  
す。

結論を言うと、保健師の力をもつと  
生かして、お金がかかる手前の段階で  
問題を未然に防ぐ以外に解決策はあり  
ません。保健師はこれから大増員する  
べきです。

—では最後に、藻谷さんご自身が人生  
において大切だと思ふことについてお  
聞かせください。

**藻谷** 経済を成長させることばかり考  
えている人は、お金で何でも解決でき  
ると思っています。そのうちに、お金  
を稼ぐこと自体が自己目的化してしま  
う。でも、個人の健康や幸せにおい

て、お金で解決できることは一部だけ  
です。

私の周りのいろんな人を見ていて思  
うのは、どういう相手と結婚して、子  
どもがどんなふうになつて成長してい  
るか、独身でも友達はどうなつてい  
るか、といったことが、人生に大きく影  
響しているということです。お金では買  
えないかけがえのない人間関係を、ほ  
かのものを犠牲にしても手に入れてお  
いた方がいいのではないのでしょうか。

相手がいい人はもう少し相手を大事

にして、夫婦関係を深  
めていくべきだと思います。  
相手も新鮮な目  
で見ることが大事です  
よね。私なんかは、冒  
頭でお話したように、  
人の顔を記憶するのが  
苦手なものだから、妻  
に会うたびに「あれ、  
こんな美人だったか



な？」と、新鮮な印象を受けます。ま  
あ、髪を切ったことにも気付かないよ  
うな典型的な男なんですけど(笑)。  
子どもが成長して家を出て行った後  
にも、2人で楽しく生きていけるよう  
な関係を築いておくことがすごく大事  
だと思います。もちろん夫婦もどちら  
か先に死ぬわけで、その後一人でも10年  
も20年も生きているケースもあります  
から、相手と仲がいい人ほど、夫婦以  
外の人間関係も大事にしておかないと  
はならないですね。